

議第2号

令和8年度 公益社団法人京都市観光協会 (DMO KYOTO) 事業計画 (案)

2025年は、大盛況のもと閉幕した「大阪・関西万博」が大きな牽引役となり、外国人客数が4200万人を超え、過去最高を更新した(日本政府観光局(JNTO)発表)。

また、当協会が発表している「データ月報」に基づく年次速報によると、京都市内主要ホテルの2025年の客室稼働率は80.6%と前年を2.8ポイント上回るなど、多方面の国や地域からの宿泊需要が高まった1年となった。

一方で、国際情勢の不安定化、混雑やマナー問題等の観光課題に対する懸念、観光業界の担い手不足、AIの普及など、観光を取り巻く情勢は日々変化している。

当協会では、2022年度から第2期中期計画を定め、「政策課題解決」「事業者(会員)支援」「科学的経営」の3本柱の方針を掲げて各種取組を推進してきた。第2期中期計画が今年度末に期限を迎えるため、会員の皆様のご意見を取り入れつつ、2030年度末までを目途とした「DMO KYOTO経営指針2030」を新たな中期計画として策定する。

新たな中期計画では、前期計画に掲げた3本柱を踏襲しつつ、新たな柱として、伝統を軸にした共創を促進するという思いを込め「守破離」の精神を掲げている。

今年度は、新たな中期計画の下、8つの重点対策に基づき着実に各種取組を推進するとともに、京都市が新たに策定を予定している「京都観光・MICE振興計画2030」とも歩調を合わせ、市民生活と調和・両立した持続可能な観光、更には京都の魅力を守り育てることで、京都の本質を未来につなぐ観光の実現に向けて取り組んでいく。

柱1 多様で奥深い京都観光の振興と情報発信

京都が誇る伝統文化や行事を軸に、ニーズやトレンドに応じて事業を実施するとともに、一部に生成AI技術への対応・導入を行いながら多様な魅力や情報を「正しく」「わかりやすく」発信する。

○奥深い魅力の発信による京都ファンの基盤強化・開拓

京都ファンに京都への愛着を引き続き抱いてもらうために、京の夏の旅、京の冬の旅、三大祭観覧席事業等を通じて、京都が誇る伝統文化、伝統行事の魅力を発信するとともに、若年層や文化、アートに関心を持つ層に訴求する事業企画を行うなど、新たなファン層の開拓に取り組む。

○生成AIを活用した観光案内 【新規】

AI技術の活用により、観光客がスマートフォン等で提示した質問やニーズに応じて、「京都観光Navi」等の情報をもとに自動で回答・提案を行う機能を開発し、観光客の利便性向上を図る。

○公式WEBサイト、SNS運営 【充実】

京都観光公式WEBサイトについて、普及が進む生成AIによる情報検索行動に対応するため、対応状況測定機能を導入する。さらに、周辺部の観光名所や行事、朝や夜の景色など、観光課題の解決につながる映像素材を新たに収集し、魅力を発信する。

関連事業

「京都千年の心得」の取組、デジタルマップの活用、海外情報拠点の運営(設置箇所増設)、海外メディアへの取材支援及び情報発信、琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会の運営、京都総合観光案内所での窓口相談データ収集実証事業、重要文化財「旧三井家下鴨別邸」の運営 等

柱 2

市民生活と調和・両立した持続可能な京都観光の推進

局所的な混雑緩和やマナー啓発といった観光課題対策に取り組むとともに、京都観光モラルの普及啓発を促進し、観光関連事業者・観光客・市民の三者がお互いに尊重しあう関係づくりに取り組む。

○「京都観光モラル」の普及啓発

京都を訪れる観光客が京都観光モラルへの理解を深め、観光客による京都観光モラル宣言を促進するキャンペーン等に取り組み、京都観光モラルの普及啓発を通じて観光マナーの向上を図る。

○マナー啓発、マナー向上の取組 【充実】

一部の地域や時期に観光客が集中することにより生じる観光マナー問題の解決に向けて、事業者主体のマナー啓発の支援や、WEB サイト及び SNS による啓発情報の発信のほか、主要観光地への啓発員配置期間を増やすなど、マナー啓発の取組を強化する。また、京都市認定通訳ガイドによるガイドツアーのなかでマナー啓発・向上に取り組む。

○観光への共感の輪の拡大

市民向け特設サイト（「LINK！LINK！LINK！」）において、京都観光が市民にもたらす効果等を発信するとともに、会員事業者等の協力を得た市民向けの特典を通じ、市民の皆様が京都の魅力を見出す機会を創出する。

関連事業

混雑可視化による分散化、多様なエリアの魅力発掘・発信(場所の分散化)、府市連携による周遊観光の促進、朝観光・夜観光の推進(時間の分散化)、手ぶら観光の推進 等

柱 3

観光関連産業の活性化

経営者や従業員を対象にした研修や会員同士の交流機会の創出、観光に関わる分析データの提供等を通じて経営支援を行うことで、観光関連産業の活性化と会員事業者の満足度向上に取り組む。

○宿泊施設の質の向上 【新規】

市内宿泊施設を対象として、多様なニーズへの対応や安心・安全な受入環境の充実等への支援を行うことにより宿泊施設の質の向上を図り、宿泊観光を促進する。

○担い手確保支援、事業者交流の場の創出

観光業界の経営者や従業員を対象とした研修を企画するとともに、会員事業者をはじめとした意見交換等を行うイベントを定期的を開催することで、会員間のネットワーク強化を図る。

○各種分析データの発表 【充実】

市内宿泊施設の統計情報（「データ月報」）のほか、観光業界における経営や従事者の状況等を収集・分析し、発表することで、観光関連産業の活性化を図る。

関連事業

事業者向け WEB サイトの運営、「京都観光はたらく Navi」運営、宿泊施設魅力発信事業、会員事業者向け多言語対応支援、会員・事業者向けメールマガジンの運営 等

柱 4**DMO組織体制の強化**

「世界水準のDMO」を目指すにふさわしい組織体制の構築に向けて、施策に応じた専門スキルを持つ人材採用・育成等に取り組み、中長期的な体制強化を図る。また、第三者視点の導入等によりガバナンス強化に取り組む。

○ 専門人材の登用 【新規】

今後も成長が続くインバウンド市場を見据え、情報発信分野において、わかりやすい発信に加えて AI の普及も踏まえ、伝えたい情報が正しく伝わる戦略的な情報発信に取り組むため、専門人材を登用する。

また、外国人観光客のニーズが多様化している状況を踏まえ、海外メディアを中心とした戦略的なプロモーションと外国人観光客に京都の伝統や文化への愛着を持っていただける環境整備を行うため、インバウンド対応の専門人材を登用する。

○ 中長期的な組織体制の強化 【充実】

国内観光客はもとより、インバウンドの取り込みを見据えた観光コンテンツ開発・プロモーションを強化するため、担当部長ポストを1名増員し、経営体制を強化するとともに、新たに正職員を登用し、中長期的な組織体制の強化を図る。

○ ガバナンス強化

公益法人法の改正に伴い外部理事及び外部監事を設置し、当協会の経営に第三者の視点を取り入れるなど、公益法人としてガバナンス強化を図る。

令和8年度 公益社団法人京都市観光協会 事業計画（案）

<実施事業詳細>

I 観光都市京都の紹介宣伝事業（公益目的事業会計）

1 情報発信の充実

（1）京都観光公式WEBサイト「京都観光Navi」の運営 **充実**

公式サイトならではの豊富な情報を引き続き発信し、京都観光が初めての観光客からリピーターまで、幅広い方々が必要とする情報にアクセスできるよう、WEBサイトの運営を行う。また、生成AIの普及によって変化する情報検索行動に対応するため、対応状況を測定できる機能も導入しつつ、WEBサイトの設計や構造を再点検し、最適化を図る。

- ア 観光イベントの開催・中止情報
- イ 文化財特別公開、三大祭有料観覧席等の主催事業に関する情報
- ウ 桜の開花・紅葉情報
- エ 主要観光地への交通手段及び企画乗車券に関する情報
- オ 主要観光地における混雑状況及び混雑予測情報
- カ マナー啓発や需要分散化等、観光課題解決を目的とした事業の情報
- キ 災害時の緊急情報等の安心・安全に関わる情報
- ク 民間メディアが発信する京都観光関連情報をユーザーが検索できる機能
- ケ 京都総合観光案内所等に寄せられる相談を踏まえた「よくある質問」

（2）多言語サイト「Kyoto City Official Travel Guide」の運営 **充実**

海外における京都観光の情報プラットフォームとして、英語を中心に多言語（フランス語、中国語簡体字、中国語繁体字、ハングル、スペイン語）でWEBサイトを展開し公式サイトならではの情報を発信する。また、生成AIの普及によって変化する情報検索行動に対応するため、対応状況を測定できる機能も導入しつつ、WEBサイトの設計や構造を再点検し、最適化を図る。

- ア 観光イベントの開催・中止情報
- イ 京都ならではの質の高い体験商品を紹介するページの運営
- ウ 民間メディアによる京都の魅力を伝える記事の翻訳掲載
- エ 桜の開花・紅葉情報
- オ 主要観光地への交通手段及び企画乗車券に関する情報
- カ 主要観光地における混雑状況及び混雑予測情報
- キ マナー啓発や需要分散化等、観光課題解決を目的とした事業に関する情報
- ク 災害時の緊急情報等の安心・安全に関わる情報
- ケ 京都総合観光案内所等に寄せられる観光相談を踏まえた「よくある質問」

(3) SNSを活用した情報発信

Facebook、Instagram、X、Weibo、RED、WeChat 上に設けた公式アカウントで、観光情報のタイムリーな発信やマナー啓発、災害時の情報を発信することに加え、それぞれの特性を踏まえた投稿を行う。

(4) 事業者向けWEBサイトの充実を中心とした広報・広聴機能の強化

事業者向けWEBサイトを運営し、当協会が実施する各種事業の解説等の発信強化による会員事業者の参画促進、統計・調査情報の閲覧の利便性の向上を図る。また、メールマガジン「京都観光 MICE NEWSletter」による情報発信に引き続き取り組み、京都観光に関心のある事業者との関係性維持に努める。

(5) デジタルマップを活用した情報発信

京都観光デジタルマップ「Kyoto Smart Navi」及び京都駅デジタルマップ「Kyoto Station Smart Navi」に、混雑情報や観光トイレ、喫煙所、ゴミ箱、駐車場満空情報、手荷物預サービスなどの情報を収録し、観光客の利便性向上を図るとともに、これらの機能の利用促進のための広告を掲出することで周知を行う。

2 海外情報拠点の運営 **充実**

海外における旅行動向等の情報を収集するとともに、現地メディアや旅行会社等に対して効果的な京都観光のPR等を行うため、世界9都市において情報拠点（レップ窓口）を運営する。

(海外情報拠点設置都市)

ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、シドニー、台北、上海、シンガポール、ミラノ

3 海外旅行商談会等出展 **充実**

海外の旅行商談会への出展を通じ、ラグジュアリー市場にデスティネーションとしての京都のPRを行うとともに、多くの顧客を有する海外の有力旅行会社と会員企業等とのマッチングを図る。

4 メディア支援

(1) 海外メディア取材支援

海外有力メディア（雑誌、テレビ、WEBサイト等）の取材誘致受入を推進し、メディアへの効果的な露出を通じ、京都ブランドの一層の向上を図る。

ア 旺盛な取材需要に応え、宿泊施設等が実施するファミトリップへの取材支援を積極的に実施する。

イ 海外有力旅行雑誌やWEBサイトを通じた京都の記事広告を掲載する。

ウ 海外インフルエンサーを活用し、混雑緩和・分散観光といった、サステナブル・ツーリズムに重点を置いた京都観光のPRを実施する。

(2) 貸出用写真・動画素材の拡充 **充実**

海外メディアにおいて京都の魅力が正しく伝わる映像の利用を促進するため、メディア関係者等に京都の写真素材を提供する専用サイト「KYOTO IMAGE BANK」と、京都観光動画素材貸出サイト「KYOTO STOCK FOOTAGE LIBRARY」を運営する。また、郊外地域の観光名所や行事、朝や夜の時間帯の景色など、混雑対策をはじめとした政策課題の解決につながる映像素材を新たに撮影して追加収録する。とくに、京都を広く紹介するため、京都市観光PR映像「Kyotopromotional video」を広く会員事業者提供する。

(3) 京都コンシェルジュ研究会

参画するホテルや所属するコンシェルジュとの連携により、当該ホテルへの宿泊層に対して必要な観光情報をより効果的に発信する。あわせて、マーケットの現状やニーズを把握し、観光客の受入環境の更なる充実を図る。

5 JR各社との連携活動

(1) JR西日本との連携

九州、北陸、中国地区からの観光客誘致を図るため、JR西日本との共同事業「京都・大阪・神戸観光推進協議会」に参画し、京都・大阪・神戸の三都市間で連携した誘致を行う。閑散期における旅行商品による集客、協議会ならではの観光素材の発掘・発信等、広域観光を推進し三都市の魅力発信に努める。

(2) JR東海との連携

首都圏及び東海道新幹線沿線地区からの観光客誘致を図るため、JR東海との共同事業「京都観光宣伝協議会」に参画し、観光コンテンツの充実を図るとともに、JR東海の媒体をはじめ、マスメディア等も活用した幅広い京都PRを推進する。

(3) JR東日本グループとの連携

JR東日本グループ旅行会社と連携し、首都圏以北の都市圏から京都への観光客誘致を目的とした観光コンテンツの提案や宿泊促進を通じ、受入体制の強化を図る。

(4) JRグループ6社共同キャンペーンと連携した観光振興の継続実施

昭和54年度以降、長年にわたり実施しているJRグループとの「京の冬の旅」キャンペーンについて、令和8年度もJRグループ6社によるデスティネーションキャンペーンとして実施する。また、令和9年度以降も冬季の観光振興の最重要事業として、引き続きデスティネーションキャンペーンとして実施できるよう要請するとともに、全国宣伝販売促進会議等の活用や他事業との連携、会員事業者をはじめとした観光事業者の参画等を通じて、キャンペーンの波及効果を向上させる。

Ⅱ 京都ブランドの向上を目指す京都観光振興事業（公益目的事業会計）

1 市民生活と調和・両立した持続可能な観光の推進

（1）京都観光行動基準（京都観光モラル）の普及啓発

京都観光行動基準（京都観光モラル）の普及啓発のため、以下に挙げる取組を行い、特設WEBサイトを中心に情報発信を行う。

- ア 京都観光モラル推進宣言事業者の募集、認定
- イ 京都観光モラルの周知につながる記事・素材の作成と配信
- ウ 観光客による「京都観光モラル宣言」を促進するキャンペーンの運営

（2）マナー啓発 **充実**

一部の地域や時期への観光客の集中により観光客のマナー問題が生じている。市民生活と観光の調和・両立を図り、持続可能な京都観光の実現に向けて、引き続きマナー啓発を展開していく。なお、警備員等による啓発に関しては、前年度より実施期間や場所を増やして充実を図る。

- ア 事業者主体のマナー啓発の支援
- イ マナー啓発イラスト等の拡充
- ウ 警備員等による観光地におけるマナー啓発
- エ 公式WEBサイトやSNSにおけるマナー啓発情報の発信

（3）混雑可視化による分散化

スマートフォン利用者の位置情報や天気、曜日、時間等のビックデータをもとに予測した観光快適度（混雑状況）を、公式WEBサイトで発信する。さらに、市内13箇所に設置したライブカメラと、イベント等の実施に合わせて対応できる臨時仮設用の2台のポータブルライブカメラを活用して、混雑状況をリアルタイムで配信する。これらのカメラのうち、修理保証期限を迎えるものについては更新し、通信障害が発生しやすいものについては通信回線の強化を図るなど、必要な改善を図る。

（4）手ぶら観光の推進

街なかや公共交通機関において、観光客による大型手荷物の携行を減少させ混雑を緩和させる手ぶら観光を推進する。

手荷物預かりや配送サービス情報を集約したWEBサイト「HANDS FREE KYOTO」の運営、繁忙期における臨時手荷物預かり所の設置、京都駅構内におけるコインロッカーの位置や満空情報の集約と発信等に取り組む。

（5）市民による観光への理解・共感の促進

市民向けWEBサイト「LINK! LINK! LINK!」を運営し、観光が京都にもたらす意義・効果、課題とその対策に関するデータなどの解説、宿泊税

の用途をはじめとした取材記事の発信、市民向けに特典や優待を提供する事業者の紹介等に取り組み、市民による観光への理解や共感の醸成につなげる。

2 マーケティング・調査分析事業

(1) 京都市観光協会データ月報の運営

京都観光の市場動向をいち早く把握できるよう、市内主要ホテル・旅館の統計情報や免税店の売上状況、ビッグデータの分析結果等を「京都市観光協会データ月報」として発表する。

(2) 事業者・従事者調査

業界における経営動向や従事者の待遇、観光モラルの普及状況などについて調査を行い、京都観光振興計画における成果指標を把握する。

(3) データ分析結果の解説

京都市において実施している「京都観光総合調査」をはじめ、外部の統計調査やインターネット上での口コミ等を幅広く収集・分析し、より質の高い観光地づくりにつながる政策立案の根拠データとして、広く公表する。また、事業計画の策定や実績評価を行う際の判断材料として活用する。

(4) リピーターの開発につながるDXの推進

文化財特別公開等の事業において収集している商品予約者の情報、アンケートの回答結果、来訪実績データ、WEBサイトのアクセス解析結果等といった情報を組み合わせて分析する。これにより、観光客がイベントを認知してから来訪に至るまでの状況の把握や、事前の予約状況をもとに将来需要を予測するなど、分析結果を活用した効果的な情報発信の仕組みを構築する。

3 観光コンテンツの開発

(1) 多様なエリアの魅力発掘・発信（場所の分散化）

「とっておきの京都プロジェクト」（対象エリア：伏見、大原、高雄、京北、西京、山科）として推進している場所の分散化事業について、各エリアの特性を活かしたブランディングを推進し、地域の活性化と誘客促進に向けてプロモーションを強化する。

(2) 府市連携による周遊観光の促進

府市連携による周遊観光促進事業「まるっと京都」において、府市周遊ツアーの造成支援を引き続き実施する。今年度は「まるっと京都」のホームページをリニューアルし、実施内容や京都観光のリピーター等へのさらなる魅力発信強化、周遊促進に取り組む。

(3) 朝観光・夜観光の推進（時間の分散化）

早朝拝観や夜間イベント等、事業者・団体等による朝観光・夜観光コンテンツ造成を引き続き支援する。また、特設WEBサイトにて、京都市・京都府の朝観光・夜観光コンテンツのイベント情報や魅力を紹介する記事の発信などプロモーションを強化することで、時間の分散化を促進し、宿泊観光や観光消費額の拡大につなげる。

(4) 「京都 千年の心得」をはじめとした京都ならではの観光コンテンツの拡充

会員事業者との連携により、京都ならではの観光資源を活用した多様なジャンル・高付加価値な観光コンテンツの開発・供給等に取り組むとともに、新たに観光コンテンツの開発に取り組む事業者を引き続き支援することで、観光の質の向上や観光客のリピーター化を図る。

(5) 第51回「京の夏の旅」キャンペーン

ア 文化財特別公開の企画実施

夏季の誘客促進を目的に、普段見学することのできない名建築や庭園等の文化財特別公開を実施する。また、前年度に好評であった「京の夏の夜の旅」を引き続き実施し、夏の暑さを避けた夜観光を推進する。さらに、定期観光バス、タクシー等による特別コースを企画するほか、インバウンドへの対応等に取り組む。

イ 参加体験型イベントの企画実施

奥深い京都のほんものの魅力に触れ、日本文化の原点に出会うことのできる体験型観光プログラム「京都 千年の心得」をはじめ、「朝観光・夜観光の推進」、「とっておきの京都プロジェクト」等の各事業との連携の下、夏の京都ならではの観光コンテンツを予約制で提供し、観光の質の向上や混雑を回避できる観光スタイルを訴求する。

(6) 第61回「京の冬の旅」キャンペーン

ア 非公開文化財特別公開の企画実施

令和8年12月開催の「寛永行幸四百年祭」に関連し「寛永行幸・寛永文化」と、令和9年3月に「半萬燈祭」が行われる「京の天神さん」をテーマに、普段見学することのできない非公開文化財の特別公開、冬の京都ならではの風情を楽しむ定期観光バス、タクシーによる特別コースを企画する。JRグループと連携し、JRの駅・車内を始め、WEBやSNSを活用したプロモーションに取り組み、幅広い世代にキャンペーンを訴求し、全国からの観光誘致を図る。

イ 参加体験型イベントの企画実施

「京の冬の旅」の魅力を深めるとともに、「京都 千年の心得」のほか、「朝観光・夜観光の推進」、「とっておきの京都プロジェクト」等の各事業と

の連携を通じ、冬ならではの多様な京都の魅力をJRグループと連携して訴求する。

(7) 京都市認定通訳ガイドの育成・活躍支援

京都観光の専門知識を身に付け、外国語で京都の奥深い魅力を伝えることができる京都市認定通訳ガイド「京都市ビジターズホスト(KVH)」(英語・中国語・フランス語・スペイン語)の認定(第8期生)を行うとともに、新規募集(第9期生)を実施する。既存のKVHに対しては、引き続き研修等を通じ支援していく。

4 伝統行事・伝統文化の振興

(1) 四大大行事の執行支援

ア 三大祭観覧席設置事業

葵祭、祇園祭、時代祭の三大祭において有料観覧席を設置する。観覧席設置等に伴う経費増大や暑さ対策などの安全対策、旅行形態の変化に対応するため、販売価格の改定、利用者ニーズに見合う高付加価値な席に加えて若い世代や留学生に三大祭を知ってもらうため席の設置、祭に関する体験プログラム等の商品造成、企業広告協賛の獲得、さらに、国内外の需要の取り込みの強化を図り、祭への執行補助金の財源を安定的かつ継続的に確保できるよう取り組む。また、各祭のプロモーションについても、執行団体等と連携し積極的な情報発信を行う。

イ 伝統行事執行補助

有料観覧席等の販売収益及び企業広告協賛金の一部を、京都四大大行事(三大祭及び京都五山送り火)への執行補助金として交付する。また、葵祭及び京都五山送り火協賛会の事務局として、協賛金の勧募活動のほか、行事を支える執行団体等との連携のもと、各協賛会の円滑な運営を通じ、行事の保存・継承を推進する。

(2) 京の食文化魅力発信事業

ア 京都国際観光レストラン協会の運営

京都国際観光レストラン協会の事務局運営を担い、国内外の観光客に向け、当協会会員店舗や京料理、京の食文化の情報発信等を行う。

イ 京料理展示大会

京都料理組合が主催する「京料理展示大会」において、京の食文化の発信に努める。

ウ 「食の京都」情報発信

「食の京都」のWEBサイトを通じ、奥深い京の食文化の魅力発信を強化する。

5 地域振興及び面的観光の促進

(1) 琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会の運営

京都市、滋賀県、大津市等で構成される「琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会」の事務局を担い、「びわ湖疏水船」の運航事業をはじめ、文化庁が認定する「日本遺産」を活用したフィールドミュージアム整備事業等、琵琶湖疏水沿線の魅力発信事業を推進する。

「びわ湖疏水船」の運航事業では、昨夏に国宝、重要文化財に指定された疏水諸施設や疏水沿線の桜、紅葉、神社仏閣等を含めた「びわこ疏水船」の魅力溢れる情報発信とその周知を強化する。また、ふるさと納税の利用増進や一般乗船販売の強化、乗船以外のイベントの検討等、持続可能な通船運営に努める。

(2) 花灯路・ライトアップ支援事業

京都府・京都市等で構成する協議会で執行してきた「京都・花灯路」の後継事業となる「花灯路・ライトアップ支援事業」の事務局を担い、京都全域の観光振興や地域振興に資する事業に対し行灯・配線ケーブル等の電気設備資材の貸出しを行う。夜観光、宿泊観光の促進による滞在時間の延長により、経済効果の波及を狙う。

(3) 京の七夕

京都府、京都市等で構成する「京の七夕実行委員会」の事務局を担い、旧暦の七夕にちなみ8月上旬に、「祈り」や「願い」をテーマに、京都各所で行われる民間や各種団体の主催する「京の七夕」協賛イベントに対して、広報と情報の収集・発信を行う。また、笹飾りや短冊の配布等の事業支援を行い、夜観光、宿泊観光の促進につなげる。

(4) 二条城との連携

二条城において春・夏・秋に開催される夜間ライトアップに対応した二条城大休憩所内店舗の営業や、春・秋における二条城まつりでの物産出品協会と連携した物産展の運営等を通じて賑わいを創出し、国内・インバウンド観光客の誘致につなげる。

また、二条城大休憩所内店舗に併設する「二条城・伝統の逸品」コーナーでは、京都の伝統的な技術や技法を用い、二条城の建築物や障壁画等をデザインに活かした伝統産業品を販売し、二条城と伝統産業の更なるPRに努める。

6 修学旅行受入環境の整備

(1) 京都観光推進協議会への参画

京都市や観光関連団体で構成する京都観光推進協議会と連携し、修学旅行で京都へ訪れた各地の学校を訪問し、実情や要望等を直接聞く学校訪問事業を実施するほか、春季に京都駅において修学旅行歓迎式を実施する。

(2) 修学旅行受入環境の整備

修学旅行の受入環境整備の一環として実施している修学旅行パスポート事業において、引き続き、優待内容を検索できる特設ホームページの充実や、修学旅行パスポートのダウンロード機能の普及によるペーパーレス化の推進など、利便性向上に向けた取組を進める。

なお、協会窓口にお越しになる学校関係者に対しては、修学旅行パスポートをはじめとする資料配付や相談業務を引き続き実施する。

7 事業者支援

(1) 観光の担い手確保の支援

観光業界において不足している担い手を確保するため、求職者が就職を検討するうえで参考となる事例の取材や、経営者や従業員を対象にした研修を実施し、専用WEBサイト「京都観光はたらくNavi」で発信する。また、宿泊事業者と宿泊業界に興味を持つ学生による交流や業界、仕事に関する意見交換を目的とした座談会を開催する。

(2) インバウンド向け事業企画の支援

京都信用金庫との連携協定のもと、観光事業者によるインバウンド向けの新規事業のアイデア募集を通じ、京都観光行動基準（京都観光モラル）の実践等にいたる、上質な観光コンテンツの造成を支援する。あわせて、市内宿泊施設や海外メディア担当者、京都市認定通訳ガイド等とのマッチングを促進し、業界の活性化や情報発信等を図る。

(3) 観光事業者の交流の場の創出（京都インバウンドカフェ）

観光事業者間の協業や、京都観光行動基準（京都観光モラル）の普及・啓発を推進するため、京都信用金庫との連携協定のもと、会員事業者をはじめとした観光事業者・従事者を交えての意見交換等を行うイベントを定期的に開催する。

(4) 宿泊施設魅力発信事業

夏と冬の閑散期において、OTAサイトを活用し、旅館の魅力を発信するキャンペーンを実施する。また、OTAサイトからの予約に対してインセンティブを付与する等、旅館の宿泊を促進させる事業を展開し、経営強化を支援する。

(5) 宿泊施設の質の向上 新規

市内宿泊施設を対象として、多様なニーズへの対応や安心・安全な受入環境の充実等への支援を行うことにより宿泊施設の質の向上を図り、宿泊観光を促進する。

(6) 買物環境整備・キャッシュレス促進

地域情報化推進団体K I C Sと連携し、非接触決済（キャッシュレス決済）の利便性を広くPRするとともに、土産店や飲食店等での導入及び観光客の利用を促進する。

Ⅲ 入洛観光客に対する案内事業（公益目的事業）

1 京都総合観光案内所「京なび」運営業務の受託

京都総合観光案内所運営協議会（以下「協議会」）から令和12年3月末まで運営業務を受託し、協議会から高い評価が得られるよう更に京都観光の発展に資する運営業務に努める。

今年度は新たな取組として協議会と連携して、観光相談の内容を録音し、AIにより分析する実証実験を行う。これにより、京都の魅力発信等にも活用できるようデータ収集を進めるとともに、観光案内所業務の効率化を検討する。

また、京都府域等を含む広域観光地への効率的なアクセスや交通情報の提供を行い、観光客の周遊性向上や観光の分散化を積極的に支援するとともに、京なびに蓄積された各種情報を掲載するWEBサイト「京なびオンライン」の活用を促進し、効率的な観光案内を一層推進する。

台風や大雪・地震等の自然災害時においては、京なびの強みを活かし、特に外国人観光客の支援に注力し、交通機関等の運行情報、社寺・観光施設の開閉情報等の収集を行い、求められる情報の的確な発信等に努める。

2 生成AIを活用した観光案内 新規

観光客からの問合せに対して、生成AIを活用して公式サイト等の情報をもとに自動で回答・提案を行う機能を開発する。この機能は、観光客が保有するスマートフォン等の端末上で利用ができるようにし、日本語及び英語を基本に、多言語対応を想定する。この機能の利用を促進することによって観光客の利便性を向上させるとともに、観光案内所の業務負担を軽減し、利用状況のデータを活用することによって案内所スタッフの旅程等の提案能力の向上も図る。

3 観光地図の作成

スマートフォンの普及により位置情報が簡単に分かる時代においても、紙の観光地図は距離感や位置関係が一目で把握することができる、一覧性に優れた観光案内の基本ツールである。

来所者が第一に求める観光資料として最もニーズが高く、窓口での観光案内になくてはならないツールの一つとなっている。今年度は、日本語版及び英語版（計25万部）を作成する。

4 京都駅ビル内観光案内所等との連携

春と秋の観光シーズンに合わせ、京都駅ビル内の観光案内所等で構成する「京都駅ホスピタリティ向上に関する検討会」を開催し、一部地域に入洛客が集中す

ることで発生する混雑や渋滞等、観光課題への取組状況を共有し、相互連携の強化を図ることで混雑回避や分散化の支援に努める。

また、ビジネスチャットを活用し、交通機関等の運行情報や社寺、観光施設の開閉情報等の最新情報をリアルタイムに共有し、各所での案内に活用することによる的確な情報収集を図る。

IV 観光客の利便向上を図る販売事業（収益事業等会計）

1 元離宮二条城大休憩所内店舗の運営

京都市からの受託事業として、物販コーナーとイートインコーナーを引き続き運営する。入城記念符をはじめとする二条城限定のオリジナル商品の開発や、城内イベント・各種キャンペーンと連動した商品やメニューの企画により、来城者の満足度と売上の向上を図る。

今年度は、レジデータ分析による商品入替を積極的に行い、修学旅行生やインバウンドといった客層に合わせた品揃えを追求し、収益の確保に努める。

2 有料出版物・乗車券・入場券等の販売

京なびにおいて、交通系チケット、催事観覧券、博物館・美術館入場券、各種出版物等を引き続き販売するとともに、新商品の販売等も積極的に取り組み、観光客の更なる利便性向上と収益性の向上を図る。

具体的には会員事業者との連携を強め、観光客のニーズに対応した取扱商品の拡充等に努める。

3 京都五山送り火記念品の販売

伝統行事の一つである、京都五山送り火を題材とした記念品を販売し、その歴史、意義を多くの方々に知っていただくとともに、行事への執行補助金の財源を安定的かつ継続的に確保できるよう取り組む。

V 観光施設等運営事業（収益事業等会計）

1 旧三井家下鴨別邸の管理運営

重要文化財施設「旧三井家下鴨別邸」の指定管理業務について、当協会（代表団体）、賀茂御祖神社（下鴨神社）、(株)曾根造園、三井不動産レジデンシャルサービス関西(株)の4者で共同事業体（コンソーシアム）を構成し、令和5年度から令和8年度までの4年間、「文化財の保存と活用のモデルとなる持続可能な施設運営」を目指して施設管理及び事業運営に取り組んでいる。

通常公開業務に加え、引き続き「事前予約」「少人数制」「高付加価値」をキーワードに、自主事業を積極的に展開するとともに、POS レジの分析データを運営に活用し、来館者の満足度と収益の更なる向上を図る。

今年度は、旧三井家下鴨別邸が2016（平成28年）10月1日に一般公開を開始してから10周年の節目を迎えることから、観光客や市民に向けた各種記念イベントを開催し、施設の更なるPRに取り組む。

VI 共催・後援・会員向け事業（収益事業等会計）

1 会員・事業者向けメールマガジンの運営

会員事業者向けのメールマガジンを月1回程度配信し、会員事業者のPR枠を設けるほか、会員事業者が提供する「優待サービス」の紹介等を実施し、会員同士の交流や事業連携を促す。

2 会員事業者向け多言語対応支援

会員事業者向けの多言語コールセンターを運営し、外国人観光客に対応する事業者や施設のサポートを行う。

3 会報の発行

当協会の活動状況や事業報告、新入会員の紹介等を掲載する会報誌「京観協だより」を発行する。

4 表彰

観光に携わる事業者や従業員の意識高揚を図るため、事業振興に貢献した個人及び団体の表彰を行う。

5 共催・後援

京都の観光振興につながる年中行事・催事を中心に共催・後援を行い、各事業の積極的な宣伝等を通じて支援することで、更なる京都観光の発展に寄与する。

VII 関係団体共同事業（収益事業等会計）

1 広域観光事業

（1）全国京都会議

京都と全国の「小京都」と「京都ゆかりの市町」で組織する全国京都会議の事務局を運営し、効率的な運営と広域的かつ効果的な観光誘致宣伝活動を実施する。京都においては、広義の「観光の分散化」としての取組と捉え、各市町と連携し京都からの送客のほか、インバウンドの客層を中心に積極的な情報発信を行う。また、誘致宣伝物の作成等を行い、各市町への誘客促進と魅力発信の強化に取り組む。

(2) 大都市観光協会連絡協議会

政令指定都市の観光協会等が抱える課題を持ち寄り、課題解決に向けた情報交換や先進事例の情報共有を行う。

(3) 全国足利氏ゆかりの会

全国足利氏ゆかりの会に引き続き参画し、足利氏の顕彰を図る諸事業を展開する。

2 京都観光施設協議会

京都市内及びその近郊の観光施設等で構成する「京都観光施設協議会」の事務局を担当し、参画施設への観光誘客等の取組を支援する。

3 その他

京都市や京都府、観光庁や文化庁等との連携に加え、関係業界団体の事業に参画し、地域経営の方針の浸透を図る。主な連携先は以下のとおり。

情報発信の強化

- 京都市メディア支援センター
- 京都文化交流コンベンションビューロー
- 京都創生推進フォーラム

地域連携

- 京都市地域活性化総合特別区域協議会
- 京都岡崎魅力づくり推進協議会

コンテンツ・イベント関連

- 文化庁連携プラットフォーム
- 大阪・関西万博きょうと推進委員会
- 京都文化カプロジェクト実行委員会
- 京都マラソン実行委員会
- 京都学生祭典企画検討委員会
- 京都ブランド名産品公正取引協議会
- 京都一周トレイル会
- 京都市温泉観光活性化協議会
- 京都映画賞実行委員会
- 「ワールドマスターズゲームズ2027関西」京都市実行委員会

交通

- 「歩くまち・京都」推進会議
- 公共交通機関でおこしやす・京都市協議会
- 嵐山及び東山交通対策研究会
- 京都エリア観光渋滞対策実験協議会

- 京都市地域公共交通計画協議会

その他

- 観光立国推進協議会
- 関西観光本部
- 京都テロ対策ネットワーク
- 京都市まちの美化推進事業団
- 「スローライフ京都」大作戦推進会議
- 国民公園協会京都御苑運営協議会
- 「伝統産業の日」実行委員会
- 東海自然歩道連絡協会
- 明日の京都 文化遺産プラットフォーム
- I Tコンソーシアム京都
- 京のアジェンダ 21 フォーラム
- 伝教大師最澄 1200 年魅力交流委員会
- 京都花街おもてなし文化振興協議会
- 京都-歴史と文化発信事業推進実行委員会
- 京都市脱炭素先行地域推進コンソーシアム
- 鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会
- 京都モダン建築祭実行委員会